

六甲山の災害展の開催について

1. 開催趣旨

震災から6回目の梅雨を迎えるが、幸い震災以降これまで大きな土砂災害の被害を受けずにきたが、六甲山の風化した岩盤は地震による更に傷つけられ、また、急斜面の地形が市街地に近接しているなど、大雨による土砂災害が発生する可能性は高い。

今回の展示会では、昭和13年、昭和42年の降雨による災害および震災の被害写真、並びに震災後の降雨による被害と復旧状況を絵画と写真で展示します。

また、模型で土石流発生を再現して災害に対する知識を高めていただくとともに、会場に土砂災害危険予想箇所図を設置し危険地区と避難場所を確認していただき、阪神間住民防災意識の向上を図る。

- ・六甲山系土砂災害は、ほぼ30年を周期として発生し、平成11年は過去の大規模な六甲山系土砂災害(昭和13年、昭和42年)からおおむね60年、30年を経過している。
- ・防災工事は、順調に進んでいるが、ハード対策だけでは限度がある。住民がいざという時の素早い避難を行う体制を常に維持することが重要である。
- ・そのためには、住民が災害に対する知識を高めること及び危険地や避難場所等の所在場所を予め知っておくことが重要である。

2. 開催時期 平成12年 6月1日(木) から 6月30日(金)

3. 開催場所 フェニックスプラザ(阪神・淡路大震災復興支援館)
神戸市中央区 JR三宮駅前

4. 主催 阪神・淡路大震災復興支援館
建設省六甲砂防工事事務所
兵庫県・治山課、砂防課、六甲治山事務所

5. 展示物

(1) 六甲山の荒廃と緑化の歴史

六甲山の植生が縄文から現在まで時代とともに変わってきた歴史を、絵画と当時の絵図写真などで紹介。

(2) 六甲山の災害

六甲山は繰り返し土石流を発生させ、ほぼ30年に一度の割合で大災害を起こしている。約60年前の昭和13年に発生した阪神大水害は731名の命を奪い、約30年前の昭和42年災害では100名の市民が土砂崩れの犠牲となった。兵庫県南部地震でも数多くの崩壊が発生した。各災害の状況を展示する。

① 昭和13年災害（阪神大水害）： 高山超陽画伯の阪神大水害スケッチ、
当時の新聞、被害地図、被害写真など

② 昭和42年災害： 当時の新聞、被害写真、山地崩壊状況など

③ 兵庫県南部地震： 山地の被害状況写真、復旧状況写真

④ 震災後の災害とその復旧状況

⑤ 阪神・淡路大震災： 六甲山被害地図、復旧対策の実施状況写真など

地震の研究：ヘリコプターによる山地災害危険地の調査
森林土木効率化等技術開発モデル事業の
震動台実験の写真

(3) 土砂災害危険箇所図

阪神間には1,500箇所にあぶ危険箇所がある。六甲山系に近接する全区域について、危険箇所、避難場所等の情報が入った1万分の1の地図を備えつけて、住民が自宅付近の危険箇所と避難場所を再確認することを目的とする。

(4) 土石流模擬実験（6月9日から6月30日）

長さ3m 高さ1.5mの土石流発生模型2台で、土石流を再現し、災害の恐ろしさ、砂防ダム・治山ダムの必要性を普及啓発する。

(5) ビデオ

土石流と砂防ダム 9分： 建設省六甲砂防工事事務所

わたしたちにできる土砂災害の備え 18分： 兵庫県土木部

土石流を検証する 6分： 兵庫県六甲治山事務所

小型震動台公開実験 2分： 兵庫県六甲治山事務所

みどりの山再び 12分： 兵庫県治山林道協会